

學校用祈禱書

特263
118



始



學校用新書

102

特263
118

救主降世千九百二十三年七月
昭和八年

學校用祈禱書



私立臺南長老教中學發行



緒言

從來我校に於ける公禱殊に國家の祝、祭日に當り禮拜式を擧ぐるに際し唯々司會者のみが祈りを唱ふるよりは生徒にも祈禱書を持たしめて司會者の祈りの精神を良く了解せしめ共に心を合せて祈りを捧ぐるの必要を感じたり殊に交禱は此の目的に對して大なる裨益あるを信ず又生徒各自の私禱に際しても本書を用ゆる場合の多からんことを望み臨時祈禱の一篇をも加ふることとし今回二、三の教員の協力により本書を編纂したり本書の編纂に當り“SCHOOL WORSHIP”、“EVERY DAY PRAYERS”、日本聖公會祈禱書、靈交錄(栗原基氏譯)、山室軍平、賀川豊彦兩氏の著書中の祈り等より翻譯、摘録或は轉載せるもの少からず特に記して原著、譯者の諒恕を請ふ

若し本書によりて生徒の信仰を養ひ又之を堅ふするを得ば我等に在りては無上の満足にして深く神に感謝する處なり

昭和八年六月

私立臺南長老教中學

使用の注意

- 一 聖語は朝夕の禮拜及大祭祝日の禮拜等に際し司會者は隨意其の一、二節を朗讀すべし
- 二 主の禱は司會者に於て式中適宜の順序に挿入すべし
- 三 交禱と其の前に讀む聖語とは新年と學校創立記念日とは同一のものを用ゆる目的にて之を新年の部に記載し、又紀元節、天長節、明治節、始政記念日、臺灣神社祭は同一のものをを用ふる目的にて之を紀元節の部に記載したり

目録

一 主の禱、聖語	一頁	明治節	二九—三〇
主の禱	一	始政記念日	三一—三二
聖語	二—三	臺灣神社祭日	三三—三四
二 朝夕の禱	四	地久節	三五
朝	四—九	四 學校の爲	三六
夕	一〇—一四	創立記念日	三六—三七
三 祝祭日の禱	一五	學校の爲	三八
新年	一七—二二	學寮の爲	三九
紀元節	二三—二六	始業式	三九—四〇
天長節	二七—二八	終業式	四〇—四一
目録		入學式	四一—四二
		卒業式	四二—四三
		同 女學校の爲	四三—四四
		中學の爲	

目録

級長室長任命式
運動競技の爲

四六
四六—四七

五 臨時祈禱

傳道の爲

四八

奉仕の爲

四九

仕事を始むる前

四九

聖書を讀む前

四九

禮拜前個人の祈

五〇

禮拜後個人の祈

五〇

研究の爲

五〇

誘惑を防ぐ爲

五一

同

五一—五二

心を清むる爲

五二—五三

目録

收穫感謝
食前感謝

五三
五三

又

五四

病人の爲

五四

平癒の感謝

五四—五五

父母兄弟の爲

五五

親戚朋友の爲

五五—五六

青年の爲

五六

平和の爲

五七

獻金

五七—五八

降誕日

五八

受苦日

五八—五九

復活日

五九—六〇

六 交禱

十誠

六一—六四

イエスの誠命

六五—六六

神の御旨

六七—六九

救主イエス・キリスト

七〇—七三

聖靈なる神

七二—七四

信仰の嘆願

七五—七七

自然の讚詠

七八

春

八一—八二

夏

八三—八四

秋

八五—八六

冬

八七—八八

目録

七 祝福及祝禱

八九—九〇

○主の禱

天に在す我等の父よ。願くは御名の崇められんことを。御國の來らんことを。御意の、天の如く、地にも行はれんことを。我等の日用の糧を今日も與へ給へ。我等に負債ある者を我等の免したる如く、我等の負債をも免し給へ。我等を嘗試に遇はせず、惡より救ひ出し給へ。國と權と榮は窮り無く爾の有なればなり。アーメン

一 聖語

此の聖語は、朝夕の禮拜及大祭、祝日等の
際司會者は隨意其の一、二を朗讀すべし

○主はその聖なる宮に在ませり、全地其の御前に黙すべし

哈巴谷書二章二十節

○我が磐、我が贖主よ。我が口の言、我が心の念を、常に御心に協はしめ給へ

詩十九篇十四節

○神の求め給ふ供物は碎けたる靈魂なり。神よ。汝は碎けたる悔いし心を輕め給はざるべし

詩五十一篇十七節

○起ちて我が父にゆき「父よ。我は天に對し、又汝の前に罪を犯したり。今より汝の子と稱へらるゝに相應しからず。雇人の一人の如く爲し給へ。」と言はん

路加傳十五章十八、十九節

○若し罪無しと言はゞ、是みづから欺けるにて、眞理我等の中に無し。若し己の罪を言ひあらはさば、神は眞實にして正しければ我等の罪を赦し、凡

ての不義より我等を潔め給はん

約翰第一書一章八、九節

○求めよ、然らば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん

馬太傳七章七節

○汝等惡しき者ながら、善き賜物を其の子等に與ふるを知る。まして天にいます汝等の父は、求むる者に善き物を賜はざらんや

同 十一節

○汝等のすべて父に求むる物をば、我が名によりて賜ふべし

約翰傳十六章二十三節

○求めよ、然らば受けん、而して汝等の喜悅みたさるべし

同 二十四節

○何事にても我が名によりて我に願はゞ、我これを成すべし

同 十四章十四節

二 朝夕の禱

○朝の祈

司會者 神よ。我等の心を潔めたまへ
 會衆 我が衷に直き靈を再び興したまへ

○懺悔

我等の主イエス・キリストの父、萬物の造主、萬人の審主なる全能の神よ。
 我等意と言語と行爲とを以て罪を犯し、幾度と無く主に反きたることを悲みて懺悔す（此時暫く黙して各）。慈悲深き父よ。我等を憐みたまへ。御子我等の主イエス・キリストの功に依りて、過ぎし罪を悉く赦し、今より後行爲を改

めて常に主に事へ、御心に協ひ、御名の榮光を顯はさせたまへ。イエス・キリストによりて冀ひ奉る アーメン

○主の禱

司會者 主に感謝せよ
 會衆 主は恵深くましまして、其の憐かぎり無し
 司會者 至高き處には榮光、神にあれ。地には平和、主の悦び給ふ人にあれ

○一般感謝

全能の神、慈悲の父よ。我等と人々に豊なる恩恵を降し給ふことを伏して感謝し奉る。主は我等を造り、我等を護り、此の世の物を與へ、殊に主イエス・キリストに由り世を贖ひて量無き愛を顯し、恩恵を受くる途を示し、後

の世の榮光の希望を懐かしめたまへり。願くは此の諸の恩恵に深く感じ、唯言のみを用ひず、己を獻げて主に事へ、生涯清き行を用ひて主の榮光を顯すことをイエス・キリストに由りて得させたまはんことを。願くは譽と榮光、限り無く父と子と聖靈に在らんことを アーメン

司會者 聖なる哉、聖なるかな、聖なるかな萬軍の神

會衆 主の榮光は天地に充てり。至高き主よ。主に榮光あれ

司會者 我が助は主の御名に在り

會衆 主は天地を造りたまへり

司會者 主よ。我が天皇に祝福を降したまへ

會衆 主よ。我が國を護りたまへ

司會者 主よ。我等の生涯、泰平を與へたまへ

會衆 地の極まで、戦を熄めしめたまへ

司會者 主よ。我が學校を守りたまへ

會衆 凡の經營者を導きたまへ

司會者 主よ。職員をして主の御榮を顯さしめたまへ

會衆 凡の生徒をキリストの御弟子となしたまへ

○ 限無く活ける全能の神よ。我等は主に依りて生き、又動き、又在ることを得るなり。生れしより今日に至るまで主は我等を護り、殊に昨夜を主の御護の下に過して今朝を迎ふことを得させたまへることを感謝し奉る。主よ。我等を導きて今日を清く正しく過さしめたまへ。我等各々自己の務を忠實に執り行ひ。惡に傾かず、善に離れず、身も心も日々聖靈の導きに依りて成長することを得させたまへ。イエス・キリストの御名によりて 希ひ奉る

○ 又は

父よ。朝毎に新なる主の恵を感謝す。眠の賜物、健康と力、仕事と奉仕の新しき機會。其他多くの事に付ては、悉く主に感謝す。人の顔を見るに先ち、

先づ主の聖顔を拜せん。これ我が面貌の力、我が神なればなり、主の導き無くば、進みて一日の義務と仕事とに行かざるべし。我を強めて凡の仕事に忠ならずしめ給へ。艱難の中に勇み、苦痛の中に忍び、失望の間にも主に在りて希望に満たしめたまへ。主の憐みによりて聽し召したまへ アーメン

○天皇陛下の爲

王の王・主の主・いと高き天の父よ。我が 天皇陛下の上に厚き御護と豊かな御祝福とを降し給はんことを祈りたてまつる。願くは玉體健に、聖壽長く。皇室の尊榮彌増し、國の内外平穩に、國民の幸福日に進み、主の聖旨治く行はれて、人々皆限無き生命の道を歩くことを得させたまはんことを。イエス・キリストに頼りて 希ひ奉つる アーメン

○萬民の爲

凡ての人の造主、護主なる神よ。主の道を萬民に教へ、主の救を萬國に知らせたまはんことを伏して 冀ひ奉る。殊に聖靈を以て我が臺灣に於ける主の教會を導き、牧師、傳導師、日曜學校の教師、主の名によりて建てられたる

諸學校の職員、働を導き、忠實勇敢に信徒の教養と福音の宣傳と生徒の教育とに従事せしめたまへ。凡ての信徒をして皆眞理を悟り、信仰を保ちて、心を一にし相和ぎ、常に正しき事を行はしめたまへ。生徒の父兄を護り導き、常に御祝福の下に置きたまひて、終に皆共にキリストの救に入らしめたまへ。又心に身に生活に惱ある人々を父の仁恵に委ね奉る。願くは各其の艱に應じて、之を助け、之を慰め、苦を忍ぶ力を與へ、終に艱難の中より救ひ出して幸福なる途に到らせたまはんことを。此等の祈を我等の救主イエス・キリストによりて捧げ奉る アーメン

○守りの爲

全能の神よ。主は我等が自ら助くる能力無きを知りたまふ。願くは常に我等を護り、外は身體を害ふ災難を防ぎ、内は靈魂を攻むる惡念を除きたまはんことを。主イエス・キリストによりて願ひ奉る アーメン

○祝 禱

○夕の禱

司會者 主よ。我等の口を開きたまへ

會衆 我等、主の譽を顯すべし

司會者 神よ。速に我等を救ひたまへ

會衆 主よ。疾く來りて我等を助けたまへ

○懺悔

懺 深き神よ。我等今聖前に立ちて己が罪を懺悔し奉る(此時暫く黙して各)。
主が罪に對して御怒を顯したまふことは眞に正し。然れども主赦し給ふにあ
らずんば、誰か主の御前に立つことを得んや。願くは僕婢等の過去の罪を
悉く赦し、今より後常に御心に叶ふ生涯を送らしめたまはんことを。救主

イエス・キリストに頼りて希ひ奉る アーメン

○主の禱

司會者 主に感謝せよ

會衆 主は恵深くましまして、其の憐かぎり無し

司會者 至高き處には榮光、神にあれ。地には平和、主の悦び給ふ人にあれ

○一般感謝

天の父よ。我等世に生れ、活き働きて日を過し、各々其の境遇に應じて必要
の物を與へられ、殊にイエス・キリストの救に與ることを得る故に感謝し奉
る。主よ。我等をして常に主の御保護の中に在りて、如何なる場合にも、感
謝の生涯を送ることを得させ給へ アーメン

司會者 我が助は主の御名に在り

會衆 主は天地を造りたまへり

司會者 主よ。我が天皇に祝福し降したまへ

會衆 主よ。我が國を守りたまへ

司會者 主よ。我等の生涯、泰平を與へたまへ

會衆 地の極まで、戦を熄めしめたまへ

司會者 主よ。我が學校を守りたまへ

會衆 凡の經營者を導きたまへ

司會者 主よ。凡ての職員をして主の御榮を顯さしめたまへ

會衆 凡の生徒をキリストの御弟子となしたまへ

○ 前の懺悔を用ふる時は此の中の懺悔の部を略す

主よ。御守護の下に此の一日を過して唯今にまで到りしことを感謝し奉る。

『我等今日心ならずも主の聖旨に背きて冒せし罪を聖前に懺悔す(此時暫く黙し悔す)一願くは憐みの御顔を向けて我等を赦したまはんことを。願くは御胸に

倚りつゝ此夜を過して更に活動を爲す力を與へられ、明朝幸なる目覺を得させたまはんことを。願くは故郷に在る父母、兄弟、親戚、朋友を護り、晝も夜も安らかに過さしめ、身も靈も主の御護りの下に置きたまはんことを。此の感謝と祈りとを主イエス・キリストによりて聞き召したまへ

アーメン

○ 萬民の爲

凡の人の造主、護主なる神よ。主の道を萬民に教へ、主の救を萬國に遍からしめたまはんことを冀ひ奉る。殊に聖靈を以て我が臺灣に於ける主の教會を導き、牧師、傳道師、日曜學校の教師、主の名によりて建てられたる諸學校の職員、勤を導き、忠實勇敢に信徒の教養と福音の宣傳と生徒の教育とに従事せしめたまへ。凡の信徒をして皆眞理を悟り、信仰を保ちて、心を一にし相和ぎ、常に正しき事を行はしめたまへ。生徒の父兄を護り導き、常に御祝福の下に置きたまひて、終に皆共にキリストの救に入らしめたまへ。又心に身に生活に惱ある人々を父の仁恵に委ね奉る。願くは各々其の艱に

應じて之を助け、之を慰め、苦を忍ぶ力を與へ、終に艱難の中より救ひ出して幸福なる途に到らせたまはんことを。此等の祈をイエス・キリストによりて捧げ奉る。アーメン

○聖徒クリソストムの祈

今心を合せて主に祈る恩恵を與へ給へる全能の神よ。御名に依りて兩三人あつまる時は、其の願を許さんと約したまへり。願くは我等の益を圖りて望と願とを遂げしめ、此の世に於ては主の道を悟り、後の世に於ては限り無き生命に到ることを得させ給はんことを。アーメン

○祝 禱

三 祝、祭日の禱

司會者は交禱の前に適宜左の聖語中、一二を讀むべし

○我が子よ。エホバと王とを畏れよ。叛逆者に交ること勿れ

箴言二十五章二十一節

○凡ての人、上にある權威に服ふべし。そは神に由らぬ權威無く、あらゆる權威は神によりて立てらる。この故に權威に逆ふ者は神の定に悖るなり。悖る者は自らその審判を招かん。長たる者は善き業の懼にあらず、悪しき業の懼なり。なんぢ權威を懼れざらんとするか、善を爲せ、然らば彼より譽を得ん。彼は汝を益せん爲の神の役者なり。然れど惡を爲さば懼れよ。彼は徒に劍を帯びず、神の役者にして惡を爲す者に怒を以て報ゆるなり。然れば服はざるべからず。啻に怒の爲のみならず、良心の爲なり。又之が爲に汝等貢を納む。彼等は神の仕人にして此の職に勵むなり。汝等其の負

債を各に償へ。貢を受くべき者に貢を納め、税を受くべき者に税を納め、畏るべき者を畏れ、尊ぶ可き者を尊べ

羅馬書十三章一節より七節まで

○然れば、我第一に勸む。凡ての人の爲、王たち及凡て権を有つ者の爲に各々願、祈禱、とりなし、感謝せよ。是我等、敬虔と謹嚴とを盡して安かに静に一生を過さん爲なり。斯くするは美事にして、我等の救主なる神の御意に適ふことなり

提摩太前書二章一節より三節まで

○汝、彼等をして司と權威ある者とに服し、且従ひ、凡ての善き業を行ふ備を爲さしめよ

提多書三章一節

○汝等主の爲に凡て人の立てたる制度に服へ。或は上に在る王、或は悪を行ふ者を罰し、善を行ふ者を賞せん爲に王より遣されたる司に従へ。善を行ひて愚なる人の無知の言を止むるは、神の御意なればなり。汝等自由なる者の如く爲とも、其の自由を以て悪の覆と爲さず、神の僕の如く爲よ。汝等凡ての人を敬ひ、兄弟を愛し、神を畏れ、王を尊べ

彼得前書二章十三節より十七節まで

○新年の禱

○今より永遠に至るまで主の聖名は讃むべきかな。日の出づる處より日の入る處まで、主の聖名は頌めらるべし

詩百十三篇二、三節

○主は諸の國の上に在りて高く、其の榮光は天よりも高し

同 四節

○主の禱

司會者 主よ。爾は我等の住所なり

詩九十篇一節

會衆 古より世々我等の住所なり

同上

司會者 山未だ生り出でず、爾未だ地と世界とを造り給はざりし時、爾は神なり。永遠より永遠まで爾は神なり 同 二節

會衆 我等は至高者の右の手のもろくの年を思ひ出でん

詩七十七篇十節

司會者 主の御前には一日は千年の如く、千年は一日の如し

彼得後書三章八節

會衆 主の憐は永遠より永遠まで、主を畏るゝ者に到り、其の公義は、

詩百三篇十七節

司會者 子等の又子等に到る

約書亞紀一章九節

會衆 心を強くし且勇め。汝の總て往く處にて、汝の神エホバ偕に在せば、

約書亞紀一章九節

司會者 我等の助は主の聖名に在り。主は天地を造りたまへる者なり

詩百二十四篇八節

會衆 疲れたる者には力を與へ、勢力無き者には強さを増し加へたまふ

以賽亞書四十四章二十九節

會衆 年若き者も疲れて倦み、壯なる者も衰へ衰ふ

同 三十節

司會者 然はあれど主を待ち望む者は新なる力を得ん。又鷺の如く翼を張り

同 三十一節

會衆 走れども疲れず、歩めども倦まざるべし

同上

司會者 我が神は己の富に隨ひ、キリスト・イエスに依りて、汝等の總ての

腓立比書四章十九節

會衆 窮乏を榮光の中に補ひたまはん

腓立比書四章十九節

司會者 汝等先づ神の國と神の義とを求めよ。然らば總て此等の物は、汝等

馬太傳六章三十三節

會衆 後のもを忘れ、前のもに向ひて勵み、標準を指して進み、神の

腓立比書三章十三、十四節

司會者 キリスト・イエスに由りて上に召したまふ召に關はる褒美を得んと

腓立比書三章十三、十四節

會衆 衰へたる手、弱りたる膝を強くし、足蹇へたる者の歩み外すこと無

希伯來書十二章十二節

司會者 願くは我等に己が日を計ふることを教へ、智慧の心を得しめたまは

んことを 詩九十篇十二節

會衆

神よ。願くは我を探りて我が心を知り、我を試みて我が諸の思を
知りたまはんことを。願くは我に邪なる途の有りや無しやを見、
我を永遠の途に導きたまはんことを 詩百三十九篇二十三、二十四節

○ 永遠より永遠まで我等の主たる神よ。主の卑しき僕等に依りて守られ、
過ぎにし歲月を安らかに送り、無事に新年を迎へて、主の深き慈愛を感謝し、
御名を讃め奉る。願くは本年をも祝福し、一層御恵に満たされ、正しく安
らかに過し、御心に合ふ生涯を送ることを得させたまはんことを。願くは我
が 天皇陛下の御世をして愈々榮えしめ、皇室の御繁榮日に加ることを得さ
せたまはんことを。一般國民は忠、孝、友、悌、和、信、恭儉、博愛の諸徳
を實行し、各々忠實に其の務に服し、其業を勵み、五穀豊熟、商工其他の業
益々興り、國の内外平穩に、教會の徳益々進み、天には榮光、地には平安、

人には喜悅遍く満ち互らしめたまへ。讃むべき救主イエス・キリストの御名
に依りて祈り奉る アーメン

○ 祝 禱

○紀元節の祈

○主は其の聖なる宮に在せり。全地其の御前に黙すべし

哈巴谷書二章二十節

○日の出づる所より日の没る所までの國々の中に我が名は大ならん。又何處にても香と潔き獻物を我が名に捧げん。其は我が名、國々の中に大なるべければなりと、萬軍の主言ひ給ふ

馬拉基書一章十一節

○主の禱

司會者 主よ。爾は我等の住所なり

詩篇九十篇一篇

會衆 古より世々我等の住所なり

同上

司會者 山未だ生り出でず、爾未だ地と世界とを造り給はざりし時、爾は神

なり

同 二節

會衆 永遠より永遠まで、爾は神なり

同上

司會者 知れ。主こそ神にますなれ

同 百篇三節

會衆 我等を造り給へる者は主にましますせば、我等は其のものなり

同上

司會者 主を己が神とする國は幸福なり

同 三十三篇十二節

會衆 主の嗣業に選ばれたる民は幸福なり

同上

司會者 恐るゝ勿れ、我汝と共に在り

以賽亞四十一章十節

會衆 驚く勿れ、我汝の神なり

同上

司會者 義は國を高くし

箴言十四章三十四節

會衆 罪は民を辱かしむ

同上

司會者 神よ。爾の諸の審判を王に與へ給へ

詩篇七十二篇一節

會衆 爾の義を王の子に與へ給へ

同上

司會者 彼は義を以て爾の民を判かん 同 二節

會衆 公平を以て苦む者を判かん 同上

司會者 實に其の救は神を畏るゝ者に近し 同 八十五篇九節

會衆 斯くて榮光は我等の國に留らん 同上

司會者 我名を畏るゝ汝等には義の日、出でて昇らん 馬拉基四章二節

會衆 主なる神は日なり盾なり 詩篇八十四篇十一節

司會者 主は良き物を與へたまはん 同 八十五篇十二節

會衆 斯くて我等の國は産物を出すべし 同上

司會者 我汝を大なる國民と成し、汝の名を大ならしめん 創世記十二章二節

會衆 天下の諸の宗族、汝に依りて福を得ん 同 三節

司會者 我、汝の名を萬代に知らしめん 詩篇四十五篇十七節

會衆 故に諸の民は遠永に汝に感謝すべし 同上

司會者 神は彌遠永に我等の神にまませり 同 四十八篇十四節

會衆 我等を死ぬるまで導き給はん 同上

○

天地の主なる神よ。主は往昔より萬國を知し召して其の盛衰を宰り、永遠に御稜威と御榮光とを顯し給へり。今や世界萬國各々其の政府を建て、國民を保護し、戰亂殆絶えて平和の状態を保ちつゝあることを感謝し奉る。殊に我が大日本帝國を祝し、皇統は一系相續きて變らず。國運は時に盛衰ありしと雖も明治維新以來は歐米諸國の文物を攝取して庶政悉く一新し、國民の幸福大に増進したることを感謝し奉る

今日國祖神武天皇の御建國を記念するに當り、我等一同今御前に集り、過去に於ける上天の擁護を回想し、又我等の祖先が能く忠孝の誠を致して國家を護り來れることを思ひ、深く神恩を感謝すると共に、今後の御祝福を祈り奉る。願くは我が 天皇、皇后、皇太后三陛下を始め總て皇室の方々を祝

福し、上よりの御恵を豊に降したまひて、皇室の尊榮愈増し、國運益盛なるを得させたまはんことを。諸臣、百官、帝國議會の議員、其他公職に在るもの、及一般國民、各々其本分を盡し、互に其業を勵み、忠、孝、友、悌、和、信、恭儉、博愛の觀念深く國民の心を支配し、上下相親み、大小相助け、陰謀、謀叛、其他忌しき争無く、國家の基愈堅くして、國民齊しく平安を樂み、進んでは世界の平和と幸福とに對して貢獻する處あらしめ、聖旨は天の如く地にも行はれ病めるもの、弱きもの、貧しき者は各々其境遇に應じて慰めを與へられ、我が國民も他の國民も皆齊しくキリストの御國の民となり、聖名を讚美する聲治く地上に滿つるに至らしめたまへ。此等の感謝と祈りとを、讚め稱ふべき救主、イエス・キリストの御名によりて捧げ奉る

アーメン

○祝 禱

○天長節の祈

交禱は紀元節のものと同じ

○主の禱

天地の主なる神よ。我等に萬世一系の天皇を戴かせたまへることを深く感謝し奉る。主は、今上天皇に祝福を降し、聖靈を以て導き、御力を以て守りたまひて、我等をして今日目出度き天長節を祝することを得させたまふことを伏して感謝し奉る。願くは我が天皇陛下に天の賜を豊に降し、寶算永く寶祚遠く榮えさせたまはんことを。又、皇后、皇太后兩陛下を始め總て皇室の方々を祝福し、其の御繁榮益々加はらせたまはんことを。願くは政府に立ちて政治を行ふ者は皆忠誠を以て其の務に服し、帝國議會の議員、其他公職に在る者をして皆其責任の重大なるを感じ、忠實に其の務を行はしめたまはんことを。全國民は上、皇室の御安泰と下、國民全體の幸福との爲に

各各其の業を勵み、行を慎み、忠、孝、友、悌、和、信、恭儉、博愛の諸徳を實行するに至らしめたまはんことを。願くは正義、公道、博愛、平和の觀念深く世界各國民の心を支配し、戦争の禍を絶ち、我が國民も他の國民も皆齊しくキリストの御國の民となり、教會の徳益々進み、病める者、貧しき者、惱める者、各々其の境遇に應じて、聖靈の慰を與へられ、常に天の榮光を讚美せしめたまはんことを。此の感謝と祈りとを御子イエス・キリストの御名に依りて聞き召したまへ アーメン

○祝 禱

○明治節の禱

交禱は紀元節のものと同じ

天地の主にして慈愛に満ち、御力に富みたまふ我等の神よ、主は我が國に萬世一系の天皇を戴かせたまへることを深く感謝し奉る。又列聖相繼ぎて萬民を愛したまふこと慈子の如く、萬民亦皇室を仰ぎ奉ること父母の如く、忠實勇武にして我が國家を守り來りしことを感謝し奉る。天の日は變らねど陰雲時に徘徊して宸襟を惱し奉りし時も有りしかど、如何で長く天日の威を遮り得べき。明治天皇、英邁の資を以て御位に登らせられ、知識を世界に求めて大に皇基を振起せしめ、新興の學術技藝を採りて短を補ひ、後れたるを促さしめ、萬機を公論に決するの聖旨に基きて憲法を定めて帝國議會を開かしめ、勅語を賜ひて教育の方針を確立し、一國明に治りて文武共に進み、庶政大に擧りて民福日に進めり。貧しき者を賑はし、惱める者を慰めんが爲には屢々賑恤を行はせられて一視同仁の範を垂れたまへ

り。我等國民、此の聖天子の御偉徳を追想して上天の御恵を深く感謝し奉る。願くは我が皇室の御繁榮彌増し、國運日に進むことを得させたまはんとを。願くは國民皆忠、孝、友、悌、和、信、恭儉、博愛の諸徳を實行し、心を合せ力を協せ以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉らんことを。願くは國の内外平和にして、教會の徳愈々進み、世界萬國皆キリストの御國の民となり、天の榮光をして遍く地に満たしめたまはんことを。讃め奉るべき主よ。此の感謝と祈とをイエス・キリストの御名を通して聽し召したまへ。アーメン

○祝 禱

○始政記念日の祈

交禱は紀元節のものと同じ

天の父、全能慈悲の神よ。主は萬國の民を等しく護り、其の子として我等を愛したまふ。我等は己の郷土を愛するが故に、主が我が臺灣に渥き御恵を降し、溫和なる氣候、豊沃なる土地を與へたまへることを厚く感謝し奉る。又歴代の統治者を導き交通、衛生、教育、殖産、興業等の施設を次第に整頓せしめたまへることを感謝し、今後一層の御守りと御導きとを祈り奉る。主よ。統治の任に在る人々を導き、皇上一視同仁、敬天憐民の聖旨を奉體し、博愛、正義、公道に依りて善き政治を行はしめ給へ。一般人民をして各其業を勵み、行を慎み、農、工、商各種の事業益々隆昌を來さしめ給へ。主の道治く此の地に行はれ、人々皆平和の生活を樂み、イエス・キリストに在りて一となり、兄弟の交を厚くし、我が帝國の内外平穩にして戦争の禍無く、相共に天の父の愛子たるに叶ふものとなり、遂に限無き生命の御

國に入ることを得させたまへ。御子イエス・キリストの尊き御名に依りて願ひ奉る アーメン

○祝 禱

○臺灣神社祭日の祈

交禱は紀元節のものと同じ

全知全能にして凡ての事を司り給ふ天の父よ。我等今御前に集り、故の北白川宮能久親王殿下に付いて記念し、我が帝國の爲に祈を捧げ奉る。殿下は維新の戦亂に際し非常の困難に遭遇せられしが、平和克復の後遠く西歐に遊びて兵學を修めたまひ、御歸朝の後軍務に服せられて御功績最高く、最後には我が臺灣の平和を回復せんが爲に、金枝王葉の御身を以て士卒と艱苦を共にしたまひ、炎暑と戦ひ瘴疫を冒し、業未だ成らずして遂に薨去し給へり。生死は皆主の聖旨に在り、時勢の變遷も亦大能の御攝理の中に在りて進展す。我等今殿下の御靈が天の御國に在りて永遠の生命を享け給はんことを祈り奉る。主よ。我が國家を祝福し、殊に我が臺灣の地に厚く御恵を降したまひて、統治者は皇上一視同仁の聖旨を奉體し、教育、衛生其他の事業、此の土地に最も適切に施設せられ、人々をして平和と幸福とを樂ましめ給へ。

又一般住民をして嘗て我が國家に盡したる忠、孝、節義、仁愛、恭儉の士の善き模範に倣ひ、心を盡し力を盡して各々其業を勵ましめ、農、工、商其他の業大に興り、學藝愈々進歩し、悪疫の流行其迹を絶ち、人々强健なる體軀と快活なる心情とを以て安んじて各自の業務に勵精することを得させたまへ。主の榮光此の地に照り輝き、人々キリストの御名を讚美して、其の救の恵に與ることを得させたまへ。イエス・キリストの御名に依りて希ひ奉る アーメン

○祝 禱

○地久節の祈

(女學校の爲)

天地の主なる神よ。主は我國に厚き恩恵を降し、慈悲仁愛の模範を垂れさせたまふ慕はしき皇后陛下を戴かせ給へることを感謝したてまつる。願くは竹の園生の彌榮に榮えさせられ、國光益々輝きて、内外平和に、國民の幸福日に増進することを得させたまはんことを。主よ。此の感謝と祈とを御子イエス・キリストの御名によりて聞き召したまへ アーメン

四 學校の爲の禱

交禱は新年のものと同じ

○創立記念日

括弧内は女學校の爲

天の父、全能の神よ。貴き御攝理の下に我が學校を育みたまひて、今日創立第十年の記念日を祝することを得させ給へる御恵を伏して感謝し奉る。

福音を傳へんが爲に來りし諸教師は、主の御導と御護との下に艱難に堪へ、缺乏を忍び、輕侮と凌辱とを意とせず、常に主に在りて慰められ、勵まされて、次第に傳道及び教育の事業を擴張し、又有志者は教會の事業を助けて、財と力と思ひとを盡し、遂に今日に至ることを得たり。我等一同此の大なる御恵を感謝して聖名を讚め奉る。

願くは此の校に在りて教ふる者も、教へらるる者も、皆教育勅語の聖旨を奉體し、學校の目的とする處を以て己が目的とし、學校の主義とする處を以て

己が主義とし、救主イエス・キリストの福音を恥とせざるのみならず、之を以て我等の至上の目的となし、常に聖靈の導きを受けて眞正の知識に富み、行ひを慎み、健康に注意し、以て各自の本分を盡すことを得させ、卒業の後には母校に對しては其の企畫經營を贊助して改良進歩を助け、國家社會に對しては、忠誠剛健、善良敬虔の人となり、奉仕貢獻の誠を致さんことを勉め、特に島内に於ける青年運動の率先者として社會の改良に寄與する處あらしめ、家庭に在りては仁慈の父、友愛の兄弟(貞淑の妻、慈愛の母、友愛の姉妹)として善く一家を治めしめたまはんことを

願くは島内に於ける教育事業を祝福し、諸種の學校各々其の効果を擧げしめたまはんことを。願くは主の聖名に依りて建てられたる學校、病院等を護り導き、一同主の御心に從ひて其の道を歩み、キリストの御旗の下に、主に在りて勇ましく惡と戦ひ、天の御國を此の地上に弘むる爲に力の限りを盡さしめたまはんことを。主よ此等の祈りを。讚め稱ふべき救主イエス・キリストに由りて聞き召したまへ。アーメン

○祝禱

○學校の爲

全智全能なる我等の天の父よ。主の御名によりて立つ所の我が學校に厚き保護を降したまふことを感謝し奉る。此後も變らざる恩恵の下に育み守りたまへ。我等をして熱心に眞理を求めて之を體得し、常に愛を以て眞理を語り、地上の事を知ると同時に主を知り、主の聖旨に従つて救主イエス・キリストの御足の跡を踏ましめたまへ。教ふる者も教へらるゝ者も皆齊しく教育勅語の聖旨を奉體して己が人格を陶冶し、智能の啓發と徳器の成就とに勉め、忠良有爲の人となり、キリストの精神を以て將來島内諸種の事業に貢獻する處あらしめたまへ。學校の基礎愈鞏くして諸般の設備益改良せられ堅實なる發達をなし、主の榮光を全島に輝かすことを得させたまへ。我が信仰を導きて之を全ふする所の主イエス・キリストの御名によりて願ひ奉る アーメン

○學寮の爲

慈愛深き天の父、慰めの本なる神よ。我等は主の聖名によりて立つ所の此の學寮に在りて、安らかに夜を過し、日を送り、以て今日に至れる御恵を感謝し奉る。願くは此後も常に變ることなき大能の下に、祝し導き護りたまはんとことを。教師は家庭に於ける父の如くに生徒を愛護し、生徒は兄弟の如くに相親み、上級の者は下級の者を愛撫し、下級の者は上級の者に敬ひ従ひ、善あらば之を奨め、過あらば之を諫め、各自心を潔め、行を正しくし、職責あるものは各々之を重んじて以て生徒たるの本分を全くし、病める者あらば之を看護し、悲める者あらば之を慰め、餘力ある者は足らざる者を助け、知れる者は知らざる者に教へ、相共に向上進歩し、己を忘れて學寮の爲に一致協力し、常に天の父の愛子として、共に主に喜ばるゝ者となることを得させたまへ。讀むべき救主イエス・キリストの御名を通して希ひ奉る アーメン

○始業式

天地の主にして凡ての知識の源なる天の父よ。我等過ぐる學期(學年)を送りて今新なる學期(學年)に入るに當り、過去の神恩を感謝すると共に今後一

層の御恩恵を降したまはんことを希ひ奉る。教員は責任の重大なるを感じ、日々研究に勉めて自らを向上せしめ、親切と熱心と勇氣とを以て其の業務に服することを得させたまへ。生徒は校規に従順に、學業に勉め、月日重り心身の成長すると共に、内に在る靈も健にして成長することを得させたまへ。肉の欲を靈に服せしめ、唯世上の知識のみを目的とせず、神を畏るゝは智慧の始なることを深く心に留めて、眞實の健全なる發育をなし、天の父の愛子たると共に此世の父母、兄弟を喜ばしむることを得させたまへ。主の獨生子たる我等の救主イエス・キリストの御名に依りて願ひ奉る アーメン

○終業式

我等一人々々を常に愛護したまふ天の父よ。我等主の恩愛の御手の下に此の學期(學年)を終り各々家に歸りて慕はしき家庭に入り暫く休養せんとするに當り、今御前に集り神恩を感謝し奉る。主よ。我等が此の學期(學年)中に學び得しことを心に堅く留め、更に之を活用して永遠に効果あらしむることを得させたまへ。我等の學業と信仰とをして、此世の馳場を走る時の力たら

しめ、又天國に達する階梯たらしめたまへ。我等一同身も心も靈も健にして新しき學期(學年)に入ることを得させたまへ。病める者を憐みて其の病を癒し、速に歸り來りて我等と共に學ぶことを得させたまへ。主の愛子、我等の救主イエス・キリストの御名を通して祈り奉る アーメン

○若し其の學期(學年)中退學若くは轉校せし者或は將に之をなさんとする者ある時は左の祈りを添加すべし

「此の學期中種々なる事情の爲に我等と別れて此の學校を去りし」
或は

「自己の修學の都合の爲に將に此の學校を去らんとする」
「家庭の事情の爲に將に此の學校を去らんとする」
兄弟を主の御守護に委ね奉る。主よ。彼等をして常に主の愛の中に在ることを自覺せしめ、我等互に靈に於いて愛の交を續くることを得させたまへ

○入學式

智慧と力の本にして、慈悲に富みたまふ天の父よ。主の導によりて進んで高等普通教育を受くる機會を與へられ、我が學校に入らんが爲に此處に集れ

る生徒等の爲に主の深き御恩恵を感謝し、今後の厚き御保護を願ひ奉る。彼等年若くして勇氣に満てると共に、誘惑に打負け、困難に挫折するの虞あることを深く自ら警め、互に勵まし『主を畏るゝは知識の本』なる箴言を常に心に留め、教育勅語の聖旨を奉體し、學校の主義を以て己の主義とし、校規を恪守し、長上に從順に、身體健全にして學業日に進み、家庭の事情順調にして、滯無く其の修業を成し遂ぐることを得させたまへ。主よ。此の感謝と祈とを、御子イエス・キリストの御名によりて聞き召したまへ。アーメン

○卒業式

中學の爲

慈み満ち、力に富み、智慧と知識の源なる我等の天の父よ。主は我が學校に祝福を降し、過去四十餘年の間、豊なる恩寵の下に其の働を續けしめ、今日新制度に從ひて第 回の卒業式を擧ぐるの喜を與へたまへることを深く感謝し奉る。願くは我が學校を護り、月日重ると共に校運愈盛に、基礎益鞏く、諸般の設備益改良せられ、堅實なる發展を遂げ、此地方の教育に大なる貢獻をなし、主の榮光を全島に輝すことを得させたまはんことを

を。又願くは卒業生各自を祝福し、從來遵奉し來れる教育勅語の聖旨を奉體して、益人格を陶冶し、知能の啓發と徳器の成就とに勉め、上は皇恩の忝きを心に銘じて、天皇陛下の忠順なる赤子、帝國の良民となり、下は我が臺灣の進歩の爲に貢獻をなし、殊に母校の發展と校友の幸福とを圖らしめたまはんことを。又更に進んで神學の學習に入る者は天父の深き聖旨と、御子イエス・キリストの救の道に關し、熱心探求して其の高き深さを知り、生涯心と思と力とを盡して傳道牧會の務に從はしめたまへ。今や人心險惡に傾き、思想混亂、常道を踏み迷ふ人多くして、忠孝節義の風日に廢れんとす。我々の教員生徒校友皆自省みて、國家の忠實なる臣民、健全なる社會の良民たる者は主に忠信なる者の外に無きことを確信して、祈りを常にし、信仰の道を歩むことを得させたまへ。我等困難、悲み、惱み、誘惑、危険多き此世を渡りつゝ、主を仰いで祈を捧ぐる時、天より見そなはして憐みの耳を傾け、我等をして正しき道を踏み外すこと無く、常に天よりの慰と力と導とを受けて、生涯安かに主に事ふることを得させたまへ。聖子我等の救主イエ

ス・キリストの御名を通して、此の感謝と祈とを受け納れ給はんことを希ひ奉る アーメン

○同 女學校の爲

慈に満ち、力に富み、智慧と知識の源なる我等の天の父よ。主は我が學校に祝福を降し、過去四十餘年の間、豊なる恩寵の下に其の働を續けしめ、今日新制度に従ひて、第 回の卒業式を擧ぐるの喜を與へたまへること深く感謝し奉る。願くは我が學校を護り、月日重ると共に校運愈盛に、基礎益鞏く、諸般の設備益改良せられ、堅實なる發展を遂げ、此地方の教育に大なる貢獻をなし、主の榮光を全島に輝すことを得させたまはんとす。又願くは卒業生各自を祝福し、進んで更に一層の修學を爲さんとする者も、家庭に歸りて家業に従事せんとする者も、各々其の境遇に應じて天父の恩恵と、御子イエス・キリストの救の功に與らしめたまはんことを。彼等が従來遵奉し來れる教育勸語の聖旨を奉體して、益人格を陶冶し、智能の啓發と徳器の成就とに勉め、上は皇恩の忝きを心に銘じて、天皇陛下の忠

順なる赤子、帝國の良民となり、下は我が臺灣の進歩の爲に貢獻をなし、殊に母校の發展と校友の幸福とを以て念とし、家を治め、業を勵み、良妻となり、賢母となり、温良なる姉妹となり、表裏無き朋友となり、互に渝らざる友情を以て、天父の御前に嘉せらるゝ者となり、齊しく永遠の幸福に與ることを得させ給へ。今や人心險惡に傾き、思想混亂、常道を踏み迷ふ人多くして、忠孝節義の風日に廢れんとす。我々の教員、生徒、校友、皆自省みて純潔なる家庭の慈母、健全なる社會の良民たる者は、主に忠信なる者の外に無きことを確く信じ、祈りを常にして信仰の道を歩むことを得させたまへ。我等が困難、悲み、惱み、誘惑、危険多き此世を渡りつゝ、主を仰いで祈を捧ぐる時に、天より見そなはして憐みの耳を傾け、我等をして正しき道を踏み外すこと無く、常に天よりの慰と力と導とを受けて、生涯安かに主に事ふることを得させたまへ。聖子我等の救主イエス・キリストの御名を通して此の感謝と祈とを受け納れたまはんことを希ひ奉る アーメン

○級長、室長任命式

我等を救はんが爲に御子イエス・キリストを降したまひし主よ。御弟子等の足を洗ひたまひしイエスの善き模範に従ひ、我等をして人に對して喜んで奉仕することを得させたまへ。今日其の任に就く級長(室長)等をして其の重大なる責任を行はしめんが爲に聖靈を以て彼等を導き強めたまへ。彼等をして愛情と勇氣とを以て級の爲、學寮の爲に忠實、公平に其の務を執り行ひ、「善且忠なる僕」として主に嘉せらるゝ者とならしめたまへ。又其の配下の生徒をして柔順に其指導に従はしめたまへ。長たる者も配下たるものも、たゞ我事のみを求むること無く人の事をも求め、主イエスに在りし愛の心の彼等凡てに宿りて互に兄弟として相親しみ、憐憫と禮讓とを重んじ、熱心に活潑に靈の一致を保つことを勵ましたまへ。恩寵、憐憫、平和の神は我等凡てと共に在らんことを願ふアーメン

○運動競技の爲

天に在す我等の父よ。主の愛子イエス・キリストは、常に幼き者、年若き者を愛したまふことを感謝す。願くは我等が日々の仕事を行ふ場合に於ける如

く、運動競技に樂む際も、主を心に記憶て其の規則を公平に守らしめ給はんことを。運動場に在りては、美しき感情と無邪氣なる精神とを以て唯運動、競技其のもののみを愛する心を有せしめたまへ。賞品を得るを以て目的とせず、運動の爲の運動たることを心に銘じ、勝ちて誇らず、敗れて阻喪せず、純真なる精神を以て、學生らしき行動を執り、力の限を盡して、正確なる運動を行ふことを勉めしめたまへ。救主イエス・キリストが至大なる誘惑に勝ち、罵りと謗りと辱めとに心を動かさず、以て其の使命を成し遂げ給ひし勇しき模範に従ひ、終まで耐え忍びて其の競技を遂行することを心懸けしめたまへ。イエス・キリストの聖名によりて願ひ奉る アーメン

五 臨時祈禱

○傳道の爲

全能の神よ。御子イエス・キリストは使徒たちに「偏く世界を巡りて凡の人に福音を宣へ傳へよ」と命じたまへり。願くは召されて教會に在る者を導き、快く此の御言に従ひて福音を人々に教へ、救の道を萬國に弘むることを深く望ましめ、殊に我等此の學校に在りて教會の會員たる者は、主の福音を恥とせず、勇しく人々に之を宣へ傳ふる心を燃さしめたまはんことを。願くは主を知らず、牧ふ者無き羊の如く散り離れたる未信者を憐み、主の福音を聴く機會を與へ、彼等を導きて一團の群に入らしめ、一人の牧者に従はしめたまはんことを。主イエス・キリストに頼りて希ひ奉る アーメン

○奉仕の爲

善き主よ。相應しき奉仕を主に獻ぐることを教へたまへ。價を量らずして之を捧げ、負傷を顧ずして惡と戦ひ、休まずして辛勞し、主の聖旨を成すことを知る外には何等の報酬をも望むことなからしめたまへ アーメン

(イグネーシアス・ロヨラ)

○仕事を始むる前

主よ。變らざる恩恵にて、我等に先ち、絶えざる祐にて我らを伴ひ、何事を爲すにも始より終まで主に頼り、御名の榮光を顯し、終に限なき生命に到ることを得させ給へ。主イエス・キリストに頼りて冀ひ奉る アーメン

○聖書を讀む前

我等を教ふる爲に聖書を記させたまひし主よ。願くは之を聴き、之を讀み、懇に學び、且味ひて靈魂の營養と爲さしめ給へ。又願くは御言の慰安を受け、耐へ忍ぶことを習ひ、救主イエス・キリストによりて授け給へる限なき生命の希望を懷き、常に之を保つことを得させたまへ アーメン

○禮拜の前、個人の祈

天の父よ。今日靈と眞とを以て汝を禮拜することを助けたまへ。我等の思と言と行とを導きてキリストの靈を我等の心に宿らせたまへ。唯此の禮拜式のみならず何れの日、何れの處に在り、何事を爲す時にも常に主に頼り、日靈の中に生長して、次第にキリストに似ることを得させたまへ。アーメン

○禮拜の後、個人の祈

今捧げたる禮拜の間に於ける我が過を恕し、足らざるを補ひたまへ。常に主に頼り、常に言のみならず、行をも主の御旨に合はせたまへ。單此世の物のみならず、己が生命をも捧げて主に事へ、終に天國に於て永遠の生命の冠冕を受け、潔き天の使と共に常に禮拜を捧ぐることを得させたまへ。アーメン

○研究の爲

凡ての善き物の源なる神よ。我等は識見、能辯、學習、忍耐強き研究を行ふ心を主より與へられたる事を感謝し、聖名を讃め奉る。主よ。我等に見る目と、辨別する心とを與へたまへ。凡ての愚なる誇と怠りを取り除きたまへ。主が主の榮光の爲に、又後に來る人々の利益の爲に我等に與へたまひ

しあらゆる才能を善用するよう我等を助けて、其志を遂げしめたまへ

アーメン

○誘惑を防ぐ爲

神よ。我をして爾と我が救主とに對する愛を全からしめ給へ。凡の美德と敬虔、竝に世界到る處に散在する凡の爾の選民に對して、眞にして偽無き愛を懷かしめたまへ。肉と世と惡魔との凡の誘惑と攻撃とに反抗する力と勝利とを我に加へ、之によりて爾の約束し給ひし如く、爾より與へられたる力以上の強き試練と誘惑とに遇ふことなからしめ給へ。善き良心を懷く恩恵を與へ給へ。清き心と精神とを賜はり、我が中に正しき靈を新しくなさしめ給へ

アーメン

○同

極度の試練に遇ひて、而も罪を犯さざりし強き神子、我等の救主イエス・キリストの父なる神よ。今爾の御力を以て我に臨み給ひて、我を滅さんと迫り來る此の惡しき願望に打勝たしめ給へ。主よ。我は弱く、疑惑と恐怖とに充

つ。我自を恐るゝことあり、世と肉と悪魔とは善の力よりも強しと思ふ、時あり。されど今我は恩寵、力、救済に充滿せる爾を仰ぎ望み、爾を避難所、潜伏所、我が保護者、敵より遁るゝ我が強き砦となす。願くは永へに我に聞きて祝したまへ アーメン

○心を清むる爲

人の意志と感情とを司り給ふ最惠ある父よ、此の爾の僕の心に清き願望と熱情とを起し給ひて、凡の卑しき想像と穢れたる思ひとを取り除き給へ。清淨と恩との靈よ。心の思ひを淨めて、其の全體をキリストの律法に従はせ給へ。此の僕の心を導きて凡て誠なる、清き、愛すべきことのみを思はしめ給へ。穢れたる思ひに力を揮はしめ給ふ勿れ。此の僕の身を爾の靈の家たるに相應しきものとなしたまへ。此を廣くし新しくして爾に獻げ、心を盡して爾を愛し、思を盡して爾に仕へしめ給へ。空しき快樂の誘と、卑しき情慾の惑とより遁れしめ給へ。永遠に麗しき善を以て僕の眼を満たして、不徳と罪惡との正體を觀破り、之を人生最後の恥辱絶望となすに至らしめたまへ。

外は其の身體を守り、内は其の精神を守りて、爾が兩者に命じ給へる律法を尊びて之に従はせ給へ。身體を健にして一層よく思想の活動を支配し、又情慾の攻撃を退けさせ給へ。爾の御子、我等の救主の御名によりて願ひ奉る アーメン

○收穫感謝

恩恵深き神よ。水源は湧き出で、雲は露をそそぎ、播く時去り、刈る時來るは主の御業によれり。今年も地に物を生ひ茂らせ、收穫を豊ならしめ、又諸般の恩恵を施したまへることを感謝し奉る。願くは此の大なる恩恵に感じ、生涯行爲を潔くし、慎みて主に事ふることを得させたまはんことを。願くは父と子と聖靈に世々榮光あらんことを アーメン

○食前感謝

神に對する奉仕を爲さしめんが爲に、我等の必要を充たして此の食物を與へたまへる神に感謝す。今之を受くるに當り、他の貧しき人々の事を心に記憶えさせたまへ アーメン

○又

惠深き神よ。我等が肉體を強めんが爲に今此の食物を受くるに當り謹んで感謝す。願くは之を祝福し、物質に依りて肉體を強むると共に、又聖靈に依りて我等の精神をも強むることを得させ給へ。アーメン

○病人の爲

健康の善き賜の與へ主なる天の父よ。我等をして喜びの中に在りても、凡ての病める人々（殊に何某）の事を記憶えしめたまへ。彼等は如何なる時にも沮喪すること無く、キリスト同に在したまふことを信じて、病苦を耐へ忍ぶのみならず却つて平生の健康を感謝し、且病臥の間は黙想と祈りととの好機會なることを思はしめたまへ。彼等の周圍に在る人々の親切なる看護と友情、醫師の熟練によりて速に回復に至らんことを願ひ奉る。主よ。此の祈をイエス・キリストによりて聞き召したまへ。アーメン

○平癒の感謝

生命を與へたまふ神よ。我等が嚮に主の僕（何某）の爲に捧げし祈を聞き召し

平癒の喜を得させたまひし御恵を感謝し奉る。主は恩恵に満み、世の人を常に憐みたまふ。願くは此の人をして深く主の慈愛を悟り、柔順なる心を以て常に主の聖なる道を歩ましめ給はんことを。此の感謝と祈禱とを主イエス・キリストによりて捧げ奉る。アーメン

○父母兄弟の爲

父母を敬ふことを命じたまひし神、救主、主の御子たるキリストを以て家族の生活を潔め別ちたまひし主よ。我等の父母兄弟を守りて安全に健康に過させたまへ。我等相離れ居るも汝を禮拜することによりて靈に於て結合せしめたまへ。常に彼等の爲に祈り、自らは生徒たるの本分を全くして以て孝悌の人となり、常に主に在りて相共に眞の幸福の裏に住むことを得させたまへ

アーメン

○親戚朋友の爲

憐恤ある父よ。我等の親戚朋友及び凡ての親しき人々を主の保護と恩恵とに委ねたてまつる。我等互に主に在るの親情を以て相信じ、相結び、艱難の時

に助け、失意の時に勵し、悲喜共に其の苦樂を分かち、相互の信賴を裏切る如きことなからしめたまへ。願くは總て必要なるものを與へ、試の中より救ひ、生涯彼等を導きて、安全に主の御國に到らせたまはんことを アーメン

○青年の爲

今日我々の間に實行性を缺いて居ります爲、キリストの尊き福音が世に徹底せず、キリストの流された血が、空しくなつて居ることを思つて愧愧に堪へません。我々がキリストの血を以て教へられたことを實行し、我々が天分に從つて働き、我々を通して、偽らざる神を中心とした生活を示し、其の犠牲的十字架愛を日本にはつきり確證せしめて下さい。我々に更生の生活を送らしめ、大膽にキリストの運動をなさしめて下さい。我が臺灣を神の國となすために我々青年が爲すべき責任の重大なるを感じて、克己献身して此の山河の美しき土地に相應しき社會を建てさせて下さい。悪い習慣、衛生の不完全、人類共通の罪惡を此の土地から一掃する爲に怯まない息を吹き込み、パウロのやうに大膽に立たしめて下さい。キリストによりて祈ります アーメン

○平和の爲

此世の凡ての國は皆聖子の國となることを約したまへる天の父よ。戦禍の原因たる誤解、疑惑、征服慾を各國民の心より取り除きたまへ。國際間の平和を促進せんが爲に開く會議の議員をして偏見、利己、輕蔑、嫉妬を振り捨て、信用と善意と謙遜とを以て心とせしめたまへ。人類の鬭争本能を進化せしめて親和、一致、互助、共存の社會に進ましめたまへ。各國民各自が平和の君なるキリストの十字架を仰ぎ見、「劍を執る者は劍にて亡ぶるなり」と誠めたまひし聖言を忘るゝこと無く、劍を鞘に藏め、銃砲を鋤鋏に換へ、各戸皆永遠の戸を揚げて平和の君、榮光の王を迎へしめたまへ。聖子イエス・キリストによりて、王の王たる全智、全能、慈悲の父なる神に祈りたてまつる

アーメン

○獻金の祈

主よ。御前に各の所有物の幾分を獻げ得たることを感謝し奉る。願くは之を聖別し、主の御用に立つものとなしたまはんことを。主よ。我等を導き

て管に此世の財物のみならず、身も心をも主に獻ぐる者とならしめたまへ

アーメン

○降誕日

全能の神よ。世の人が闇夜を辿り、罪惡と苦難との中に呻きつゝ、此世の權力、名譽ある救の王を待ち詫びし時に當り、主の時満ちて、御子イエス・キリストは賤しき狀にて此のはかなき世に降りたまへり。我等後の世に生れ、御子によりて至高き處に在す天父の榮光を仰ぎ、地には平和、人には歡喜あることを見、御子の尊き教と、行と、犠牲との功によりて救の道に入ることを得る者、只管主に感謝し、主を讃め、主を頌へ、主を拜み、主を崇め、主の大なる榮光の故によりて感謝したてまつる。我等神恩によりて再生れ、神の子と爲れる者、日々聖靈によりて新になることを得させたまへ。主の獨生子、我等の救主キリストによりて冀ひ奉る。アーメン

○受苦日

永遠に在す全能の神よ。世の人を深く愛し、御子我等の救主イエス・キリストを降し、之をして我等と同じき肉體を取らしめ、萬民の爲に謙遜の模範となしたまへり。御子は我等を救はんが爲に甘んじて裏切られ、惡人の手に付され、十字架の上に殺されたまへり。主よ。我等をして日々己が十字架を負ひ、勇しく此世の罪と戦ひ、死に直面したる時にも泰然として之を踏み越え、「死よ。なんぢの勝は何處にかある。死よ。なんぢの刺は何處にかある。されど感謝すべきかな。神は我等の主イエス・キリストによりて勝を與へたまふ」といふことを得させたまへ。アーメン

○復活日

主よ。御子イエス・キリストは死を以て死に勝ち、限無き生命の門を開きたまへり。我等は恩恵によりて洗禮を受け、イエス・キリストの死に合ふことを得たり。願くは我等をして深く感謝して其の量るべからざる恩を受け、日力を盡して其の清き行の跡を踐ましめたまはんことを。イエス・キリストは此世に在しては罪人の友、昇りたまひては御榮の君に在まし、靈に於て日々我等に伴ひたまふ。主よ。我等罪ある者も、之を悔い改めて主に頼り、

聖靈によりて慰められ、潔められ、導かれ、救主キリストの先ち行きたまへる處に昇らせたまへ。御子の名によりて願ひたてまつる。アーメン

六 交 禱

○十 誠

全能の神よ。凡ての人の心は主に露はれ、凡ての慾望は主に知られ、凡ての密事は主に蔽ること無し。願くは聖靈の感化にて我等の心の思念を潔め、全く主を愛し、御名を崇むることを得させたまへ。主キリストによりて冀ひ奉る。アーメン

司會者 神この凡ての言を宣べて言ひ給はく

(一) 會衆 我は汝の神エホバなり。我の外何物をも神とする勿れ

出埃及記二十章

司會者 主なる汝の神を拜し、たゞ之にのみ事へ奉るべし

(二) 會衆 汝、己の爲に偶像を作る勿れ
司會者 神を金、銀、石など人の工と思考とにて刻める物と等しく思ふべきにあらざ

馬太傳四章十節

使徒行傳十七章二十九節

(三) 會衆 汝の神エホバの名を妄りに言ふ勿れ
司會者 一切誓ふな。たゞ然り然り、否否と云へ。之に過ぐるは惡より出づるなり

馬太傳五章三十四、三十七節

(四) 會衆 なんぢ安息日を聖として忘るゝ勿れ
司會者 安息日は人の爲に設けられて、人は安息日の爲に設けられず

馬可傳二章二十七節

馬太傳十二章十二節

(五) 會衆 然らば安息日に善をなすは可し
汝、父と母とを敬へ
子たる者よ。なんぢら主に在りて兩親に従へ、これ正しき事なり

以弗所書六章一節

(六) 會衆 なんぢ殺す勿れ
司會者 おほよそ兄弟を憎む者は即ち人を殺す者なり

約翰第一書三章十五節

惡に勝たるゝこと無く、善を以て惡に勝つべし

羅馬書十二章二十一節

(七) 會衆 なんぢ姦淫する勿れ
司會者 淫行を避けよ。汝等の身は其の内にある神より受けたる聖靈の宮なり。然らば其の身を以て神の榮光を顯せ

哥林多前書六章十八、十九、二十節

(八) 會衆 なんぢ盜む勿れ
司會者 小事に忠なる者は大事にも忠なり、小事に不忠なる者は大事にも不忠なり

路加傳十六章十節

(九) 會衆 なんぢ虚偽の證を立つる勿れ
司會者 虚偽を棄て、各自其の隣に實を語れ、我等互に肢なればなり

以弗所書四章二十五節

(十) 會衆 なんぢ貪る勿れ
司會者 汝の心を守れ。其の生命の流これより出づればなり

箴言四章二十三節

愛を追ひ求めよ。また靈の賜物殊に預言する能力を慕へ

哥林多前書十四章一節

○イエスの誠命

司會者 イエス言ひ給ひけるは「汝等若し我を愛せば、我が誠命を守らん」

約翰傳十四章十五節

汝等若し我が命ずる事を行はゞ、我が友なり

同 十五章十四節

第一の誠命は是なり。「なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡し、力を盡して、主なる汝の神を愛すべし」馬可傳十二章三十節
會衆 主よ。我等を憐み、この律法を守る心を與へ給へ
司會者 第二の誠命は是なり。「己の如く汝の隣を愛すべし」

同 三十一節

會衆 主よ。我等を憐み、この律法を守る心を與へたまへ
司會者 われ新しき誠命を汝等に與ふ、なんぢら相愛すべし。わが汝等を愛

約翰傳十三章三十四節

會衆 せし如く、汝等も相愛すべし
主よ。我等を憐み、此の律法を守る心を與へたまへ
司會者 凡て人に爲られんと思ふことは、人にも亦その如くせよ

馬太傳七章十二節

會衆 主よ。我等を憐み、此の律法を守る心を與へたまへ
司會者 人もし我に従ひ來らんと思はゞ、己を捨て、日々己が十字架を負ひて我に従へ

路加傳九章二十三節

會衆 主よ。我等を憐み、此の律法を守る心を與へたまへ
司會者 汝等の天の父の全きが如く、汝等も全かれ

馬太傳五章四十八節

會衆 主よ。我等を憐み、此の律法を守る心を與へたまへ

○神の御旨

司會者 イエス云ひ給ふ。「我に對ひて主よ、主よといふ者盡くは天國に入らず、たゞ天に在す我が父の御意を行ふ者のみ之に入るべし
誰にても天に在す我が父の御意を行ふ者は即ち我が兄弟、我が姉妹なり

我等が身體の健康と力とを保ち、食慾と情慾とを抑へ、如何なる時、如何なる事にあたりても、中庸を守り、心を清くするは神の御意なり

會衆 神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者 吾等の心ばせを直くし、眞理を考へ、正しく裁くは神の御旨なり

會衆 神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者 吾等の思ひに、言に、行ひに、正直にして、偽りを言はず、素直な

會衆

るは神の御旨なり
神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者

吾等のさまざまなる日々ひびの業務げふむを行ふとき、些細ささいなることにも難むづかしき事ことにも、忠實ちうじつによく勤め、且つ正しく、善き事ことのみ索めいそしむは神の御旨なり

會衆

神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者

吾等の精神せいしんをととのへ、各自かくじの弱き心こころを助け、力を竭つして相互あひたがひに睦むつみ親したしむは神の御旨なり

會衆

神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者

吾等が世よに生いくるは、主しゆとして他人たにんの爲ためにして、己おのれの利慾りよくの爲ためにあ

會衆

神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者

吾等が世よの罪惡つみと、悲哀かなしみとを除のぞき、善ぜんをもて惡あくに勝かたしめんがため

に、吾等われらの爲ためし得うることを行おこなふは神の御旨なり

會衆

神よ。爾の御旨を行はせ給へ

司會者

主しゆよ。爾なんぢのいと豊ゆたかなる恩寵おんちゆうもて、吾等われらの行爲おこなひを守り給へ。斷たえざる御助みたまけをもて吾等われらを導みちびき給へ。爾なんぢの中うちに始はじまり、進すすみ、終はりたるすべての仕事しごとの中うちに、爾なんぢの御名みなを祝しゆくし、爾なんぢの惠めぐみによりて限りなき生命いのちに入いらしめ給へ。イエス・キリストに依よりて希こひねがひ奉たてまつる

アーメン

○救主イエス・キリスト

司會者

人類の光明、世界の救主、吾等の主、而して我等の王なるイエス・

キリストよ

會衆

爾の榮の聖名を讃えん

司會者

爾は人の形に似せて造られ、溢るゝばかりの恩寵と眞理とをもて吾

等の間に住はせ給へり

會衆

爾の榮の聖名を讃えん

司會者

永遠の生命ある言のために、爾の示し給へる善の模範と、罪深き者

への恩寵のために

會衆

爾の榮の聖名を讃えん

司會者

仇敵に對して爾の示し給へる沈着のために、友に示し給へる忍耐の

ために、過失ある者、弱き者に示し給へる同情のために

會衆

爾の榮の聖名を讃えん

司會者

爾の苦悶のために、爾の試鍊と懲戒とのために、更に又十字架上の

死のために

會衆

爾の榮の聖名を讃えん

司會者

爾の復活と、今も生きてこの世に在し給ふことのために、爾の御國

の約束のために

會衆

爾の榮の聖名を讃えん

司會者

吾等は爾を信ずることに依りて罪の絆より救はれ、神の子の自由を

享けんことを願ふ

會衆

あゝ救主よ。吾等の祈を聽し召し給へ

司會者

爾に隨ひ行き、暗きを歩むことなく、生命の光を與へられんことを

願ふ

會衆

あゝ救主よ。吾等の祈を聽し召し給へ

司會者

爾の誠を守り、爾の愛に住はせ給はんことを願ふ

會衆 あゝ救主よ。吾等の祈を聽し召し給へ
司會者 爾を信ずる者の喜悦と、爾に仕ふる者の健康とを分ち與へられんことを願ふ

會衆 あゝ救主よ。吾等の祈を聽し召し給へ

司會者 吾等終まで忍び、父の御榮の中に爾とともにあらんことを願ふ

會衆 あゝ救主よ。吾等の祈を聽し召し給へ

○聖靈なる神

司會者 人の靈の中に在し神の證たる聖靈よ。我等が神の子たる事と、キリス

トと共に世嗣たる事とを信ぜしめたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聽きたまへ

司會者 生命を與へたまふ聖靈よ。キリスト・イエスに在る活かす御靈を我

等の中に新に生れしめ、神の御國に入ることを得させたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聽きたまへ

司會者 生命を與へたまふ主よ。御靈の果なる愛、喜悦、平和、寛容、仁慈、

善良、忠信、柔和、節制の諸徳を我等の中に結ばしめたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聽きたまへ

司會者 キリストの事を教へたまふ眞理の御靈よ。我等をしてキリストの言

を思ひ出して神の愛の深きことを悟らしめたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聴きたまへ
司會者 自由の御靈よ。キリストが我等を釋放ちて得させたまひし自由の
中に堅く立ち、神の子たちの光榮の自由の中に在りて常に喜ぶこと
を得させたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聴きたまへ
司會者 一致と平和の聖靈よ。凡てキリストの體の肢たる者をして、召され
たる召に適ひて歩み、平和の繫の中に、勉めて御靈の賜ふ一致を守
らしめたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聴きたまへ
司會者 キリストを死より甦へらせたまひし神よ。我等の中に宿り、我等を
も彼と共に活し、永遠の生命に甦らせたまへ

會衆 聖靈なる神よ。我等の祈を聴きたまへ

○信仰の嘆願

司會者 神は靈なれば拜する者も靈と眞とを以て拜すべきなり
約翰傳四章二十四節

會衆 主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ

司會者 神は光なり。若し神の光の中に在す如く光の中を歩まば、我等互に
交を得、また其子イエスの血すべての罪より我等を潔む
約翰第一書一章五、七節

會衆 主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ

司會者 神は愛なり。大凡愛ある者は神より生れ、神を知るなり
同 四章七節

會衆 主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ
司會者 神は永遠の生命を我等に賜へり。此の生命は其の子に在り

同 五章十一節

會衆

主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ

司會者

人若し罪を犯さば我等の爲に父の前に助主あり。即ち義なるイエ

ス・キリストなり

同 二章一節

會衆

主よ。我信ず、信仰なき我を助けたまへ

司會者

若し己の罪を言ひあらはさば、神は眞實にして正しければ、我等の罪を赦し、凡ての不義より我等を潔め給はん

同 一章九節

會衆

主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ

司會者

夫れ神は其の獨子を賜ふほどに世を愛したまへり。すべて彼を信ずる者の亡びずして永遠の生命を得んためなり

約翰傳三章十六節

會衆

主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ

司會者

我等今神の子なり

約翰第一書三章二節

會衆

おほよそ神より生るゝ者は世に勝つ 同 五章四節

司會者

世と世の慾とは過ぎ往く。然れど神の御意を行ふ者は永遠に存るな

同 二章十七節

會衆

主よ。我信ず。信仰なき我を助けたまへ

○自然の讃詠

司會者は各季の讃詠の前に適宜次の聖語中の一、二を讀むべし

創世紀一章一節

○元始に神、天地を創造たまへり

詩十九篇一節

○諸の天は神の榮光をあらはし、蒼穹は其手のわざを示す

詩六十五篇十一節

○なんぢ、恩恵を以て年の晷としたまへり。汝の途には膏したる

同 十二節

其の滴は野の牧場をうるほし、小山は皆喜びに圍まる

同 十三節

○天はよろこび地は樂み、海と其の中のすべての物とは喜ぶべし

詩九十六篇十一節

かくて林のもろくの樹もまた主の聖前によるこび謳はん

同 十二節

○主よ。汝の事跡はいかに種々なる。此等は皆なんぢの智慧にて造りたま

詩百四篇二十四節

へり。汝の諸の富は地に満つ

傳道之書三章十一節

○神の爲たまふところは皆その時に適ひて美麗し。神は又人の心に永遠をお

以賽亞書三十五章一節

もふの思念を賦けたまへり

馬太傳六章二十六節

○空の鳥を見よ。播かず、刈らず、倉に收めず、然るに汝等の天の父はこれ

を養ひたまふ
何故衣の事を思ひ煩ふや。野の百合は如何にして育つかを思へ。勞せず紡
がざるなり。然れど我なんぢらに告ぐ。榮華を極めたるソロモンだに、其
の服裝この花の一にも及かざりき。今日ありて明日爐に投げ入れらるる野

の草をも神は斯く装ひ給へば、況して汝等をや

同 二八、二九、三十節

此祈は自然の讃詠の各季の分の始めに用ゆ

全能の神よ。我等人間に自然を與へ給ひしことを感謝し奉る。我等は晨に、夕に、眞晝に、夜に、爾の創り給へる不思議なる智慧の御業と、優渥なる保護の御蹟とを見奉れ共、我等の眼朦くしてその御業なる自然の姿の美はしさを感ずること洵に貧し。神よ。我等に自然の美を豊かに感ずる純情を與へ給へ。而してそれらの自然の美を通じてその奥に在します爾に感謝する信仰を與へ給へ。爾の聖名のために聽し召したまへ。アーメン

此祈は自然の讃詠の各季の分の終りに用ゆ

全能の神よ。希くは我等にも、人生の美はしき花と、良き實を結ばしめ給はんことを。救主イエス・キリストの聖名によりて願ひ奉る。アーメン

○春の讃詠

司會者 美しき春の自然のために

會衆 感謝し奉る

司會者 清麗なる味爽のために、其の味爽の中に浮べる薔薇色の雲の爲に、

會衆 感謝し奉る

司會者 乳色にたゆたへる朝霞のために、其の霞の中に愼ましく鋤をかへす

會衆 感謝し奉る

司會者 早緑の新しき衣を装へる樹木の爲に、其の小枝に生命の歡を歌ふ

會衆 感謝し奉る

司會者 小鳥のために

會衆 感謝し奉る

司會者 蘆々と露ふくみて伸び行く若草のために、其の若草の蔭に、あどけ

なくいそしむ小蟲の爲に

會衆 感謝し奉る

司會者 色あてやかに咲き匂ふ花房のために、其の花房の蜜に慕ひ寄る胡蝶

會衆 感謝し奉る

司會者 甘き蜜をふくみて枝もたわゝにみのれる果物のために、その果物を仰ぎて輝ける稚兒の瞳の爲めに

會衆 感謝し奉る

司會者 ゆるやかに豊に降り灑ぐ雨の爲に、その雨の優しき情をうけて育つ

會衆 感謝し奉る

司會者 あゝ美しき春の自然のために

會衆 感謝し奉る

○夏の讚詠

司會者 力強き夏の自然のために

會衆 感謝し奉る

司會者 中天に目映ゆく輝ける太陽のために、その太陽を望みて差し伸したる裸形の人間の雙手のために

會衆 感謝し奉る

司會者 白くふくよかにたゝなはる積雲のために、その雲を横切りて閃く巨

會衆 感謝し奉る

司會者 白金の光の征矢を箴にさして、立ちつくしたる深緑の森のために、

會衆 感謝し奉る

その森に夏を叫ぶ蟬を狙ふ螻蛄の爲に

司會者 草いされに咽する濃緑の丘のために、その丘に燃ゆる白銀の絲の如

き陽炎のために

會衆 感謝し奉る

司會者 金銀の玉の光を翻へして流れ行く川のために、その川邊の砂に遊ぶ

子供のために

會衆 感謝し奉る

司會者 深く、青く、涯無き海のために、その波の岸に寄せては散る白き花

の如き飛沫のために

會衆 感謝し奉る

司會者 白き衣に汗のあふれて歩む人間のために、その人間の 蹠に感ずる

地熱のために

會衆 感謝し奉る

司會者 あゝ力強き夏の自然のために

會衆 感謝し奉る

○秋の讚詠

司會者 清き秋の自然のために

會衆 感謝し奉る

司會者 青澄みて、涯なく高さ大空のために、其の空の奥を凝視する人間の

理想のために

會衆 感謝し奉る

司會者 薄紫の夜空にかゝる白銀の鏡の如き月の爲に、其の月のかけを調

へつ、砕きつ、映す湖のために

會衆 感謝し奉る

司會者 古の傳説を秘めたる星くづのために、その星くづを靜に裏む夜の

露のために

會衆 感謝し奉る

司會者 紅葉して氣高く聳ゆる山のために、その山に秋の喜びを囁く風のた

會衆 感謝し奉る

司會者 里にも野にも、深く溢るゝ秋の心のために、その秋の心にふれて瞑

想する人間の魂のために

會衆 感謝し奉る

司會者 黄金の波に收穫を待つ稻田のために、その稻田の豊なる實りに驚く

會衆 感謝し奉る

司會者 草の根の香りに満てる肥えたる黒き土のために、その土を踏みてい

會衆 感謝し奉る

司會者 そしむ農夫と牛のために

會衆 感謝し奉る

司會者 あゝ清き秋の自然のために

會衆 感謝し奉る

○冬の讃詠

司會者 冷く寒き冬の自然のために

會衆 感謝し奉る

司會者 天使の紡ぎてははふり落す淨き小綿の如き白雪のために、その雪の

積りたる中にまろびつ、立ちつ、悦ぶ小犬のために

會衆 感謝し奉る

司會者 冬の魂を一氣に吹き寄する如き木枯のために、その風にもまれつ

つ散り行く木の葉のために

會衆 感謝し奉る

司會者 低く垂れたる霜曇りの空のために、その空の下に凍りつゝ細く立て

る裸の木のために

會衆 感謝し奉る

司會者 谿谷のほとりに枯枝と朽葉の香りを放つ焚火のために、その焚火に赤々と節くれだてる雙手をかざす木樵のために

會衆 感謝し奉る

司會者 雪の下に静けく眠る野のために、その野の土に春を待つ草花のため

に

會衆 感謝し奉る

司會者 うすら寒き冬の夕の茜空のために、その茜に溶けて沈む寂しき晩鐘の音の爲に

會衆 感謝し奉る

司會者 貧しき賤が伏家に自らは薄着を忍び、温く嬰兒を包む母のために、その母の乳房をふくみて 安に眠る嬰兒のために

會衆 感謝し奉る

司會者 あゝ冷く寒き冬の自然のために

會衆 感謝し奉る

七 祝福及祝禱

○願くは主汝を恵み、汝を守りたまはんことを。願くは主其の面を以て汝を照し、汝を憐みたまはんことを。願くは主其の面を擧げて汝を眷み、汝に平安を賜はんことを。 民數紀略六章二十四—二十六節

○願くは永遠の契約の血によりて、羊の大牧者となれる我等の主イエスを死人の中より引き上げたまひし平和の神、其の悦びたまふ所を、イエス・キリストに由りて我等の衷に行ひ、御意を行はしめん爲に凡ての善き事につきて汝等を全うし給はんことを。 世々限なく榮光彼に在れ アーメン

希伯來書十三章二十、二十一節

○願くは我等の中に働く能力に隨ひて、我等の凡て求むる所、すべて思ふ所よりも甚く勝る事をなし得る者に、榮光世々限無く教會によりて、又イエス・キリストによりて在らんことを アーメン

以弗所書三章二十、二十一節

○願くは汝等を守りて躓かしめず、瑕無くして榮光の御前に歡喜を以て立つことを得しめ給ふ者、即ち我等の救主なる唯一の神に、榮光、稜威、權力、權威、我等の主イエス・キリストに由りて萬世の前にも、今も、萬世までも在らんことを アーメン

猶太書二十四、二十五節

○願くは全能の神、其の量る可からざる平安を以て汝等の心と思とを守り、益々深く神と御子イエス・キリストを知り、且愛せしめ給はんことを。願くは父と子と聖靈の恩恵常に汝等と偕に在らんことを アーメン
○願くは主イエス・キリストの恩恵、神の愛、聖靈の交感、なんぢら凡ての者と偕にあらんことを アーメン

哥林多後書十三章十三節

昭和八年七月一日印刷
昭和八年七月五日發行

定價金五十錢

編纂者
兼發行者

臺南市後甲四二三番地

財團法人 私立臺南長老教中學

東京市澁谷區代々木
富ヶ谷町一四五六番地

越石乙次郎

右代表者
印刷者 龜谷良一

東京市本郷區眞砂町三六番地

印刷所 日東印刷株式會社

臺南市後甲四二三番地

發行所 財團法人 私立臺南長老教中學

終